

学校だより

埼玉大学教育学部附属特別支援学校

平成30年度 学校通信 No.7

平成30年12月5日



12月を迎えて

神田佳明

先日の保護者会では、ご多用の中お越しいただき、ありがとうございました。

先月は7年ぶりに担当校となった関附連埼玉大会やハートフルコンサートなど、例年とは異なる行事も入りましたが、こちらもご理解・ご協力いただきありがとうございました。

また、近年、12月に実施しておりました高等部入学選考につきましても、インフルエンザ等のリスクを少しでも下げるように11月に戻したため、お休みが長く続きました。久しぶりに登校してきた子どもたちも本当に嬉しそうでした。

平成30年も、いよいよ12月となりました。今は12月15日の学習発表会に向けて本格的に準備が進められています。

「平成最後の」というフレーズが続いた平成30年でしたが、平成最後の学習発表会も大いに盛り上がると思います。高等部が準備している大製品販売会については、日進二丁目町内にチラシを回覧する手はずとなっており、地域の方の参加もさらに増えると思います。

クリスマスソングが流れる季節になり、年の瀬を意識し出すと手帳に貼ってある、あるメッセージを振り返ります。以前にも紹介しましたが、再度紹介します。

大人が変われば 子どもが変わる 子どもが変われば 未来が変わる

居酒屋「てっぺん」の創業者である大島啓介氏の言葉です。氏のブログのトップページにもいつも掲げられている言葉でもあります。大人は大変なことも多いけれど、大人たちの本気が子どもたちの成長につながり、未来を良くしていける、と自分勝手に解釈をしています。終業式まで3週間しかありません。どうぞよろしく願いいたします。



ハートフルコンサート

民族歌舞団「荒馬座」による公演と体験とで、あっという間の90分でした。始めの公演の部では、荒馬踊り、ソーラン節など、これまで授業で取り上げられた親しみやすいものに加えて、エイサー、八丈島太鼓など、本校高等部の修学旅行になじみのあるものも取り入れてくれました。太鼓のバチさばきや技術や体力の極限ともいえる踊りを間近で見られたことは、子どもたちだけでなく、教員も大興奮でした。

体験の部では、伝え方がとても巧みで、一つの演目を子どもたちに伝えきってしまいました。

高等部→中学部→小学部と全員の児童生徒が参加し、体験できました。

終了後も「タターン、タンタン」など、口ずさんでいる生徒もいて、深く

楽しく学べた時間であったようです。今回のコンサートは日本教育公務員弘済会埼玉支部の助成により実現したものです。3年に1度の形です。次回が楽しみです。



迫力ある踊りと太鼓のコラボレーション